



Kotohому.llc Repository

物語世界を「生かす」ための
時代考証ライブラリー
【テーマ別深掘り編 Vol.1】

03



統治・社会編：「RPGの王様」と「不自由な農奴」

～なぜファンタジーの社会は、これほど“現代的”なのか？～





剣と魔法の世界を動かすのは、腕力や魔力だけではありません。

その社会を支配する「ルール」と「秩序」、すなわち統治の仕組みが、登場人物たちの運命を大きく左右します。

多くのファンタジー作品では、プレイヤーや読者が理解しやすいように、王様が絶対的な権力を持つ、シンプルで現代的な社会が描かれます。

しかし、そのモデルとなった中世ヨーロッパの現実には、常に制限される王権、複雑に絡み合った主従関係、そして圧倒的多数を占める不自由な農奴によって成り立っていました。

この資料では、ファンタジーの「お約束」と史実とのギャップを深掘りします。

この“不自由な現実”を知ることこそ、ありきたりな世界から抜け出し、登場人物にリアルな葛藤と目的を与える、最高のヒントとなるのです。



1.統治体制：絶対王政という“物語装置”

■【ファンタジーの定型】

国王が絶対的な権力を持ち、国全体を中央集権的に統治します。
主人公は王に直接謁見し、世界の命運を左右する依頼を受けることも可能です。
これは、物語の目的を提示するNPC（ノンプレイヤーキャラクター）としての、JRPG由来の機能的な王の姿です。

■【歴史的現実】

中世ヨーロッパの王権は非常に限定的で、有力な諸侯の権力によって常に制限されていました。

王はしばしば「同輩中の第一人者（*primus inter pares*）」に過ぎず、領主が独自の裁判権や課税権を持つ荘園の内部には、王の権威が及ばないことも珍しくありませんでした（不輸不入権）。

▼創作のヒント

王に力がない世界で、主人公はどうやって国を動かす？

諸侯たちを説得する「交渉」や、彼らの対立を利用する「策略」が、物語の新たな駆動力になります。



2.貴族制度：直線的な序列と、複雑な忠誠の網の目

■【ファンタジーの定型】

「公爵＞侯爵＞伯爵…」という、現代の企業組織図のように分かりやすい、固定化された序列で描かれます。

これにより、「悪役令嬢もの」における学園内の身分差ドラマなどが成立しやすくなっています。

■【歴史的現実】

封建制度は階梯（はしご）ではなく、個人的な契約が複雑に絡み合った網の目でした。

一人の騎士が、時には敵対する複数の主君に同時に仕えることも可能で、その忠誠関係は極めて流動的かつ多層的でした。

▼創作のヒント

「誰に忠誠を誓うのか？」が常に問われる世界。

ある貴族はA王の家臣でありながら、B伯の家臣でもある。

もしA王とB伯が戦争を始めたら、彼はどちらにつくのか？

その葛藤が、キャラクターの人間的な魅力を生み出します。



3.社会階層：忘れられた人口の9割

■【ファンタジーの定型】

貴族以外の民衆は、基本的に自由な「平民」として描かれます。

彼らは職業選択や移動の自由を持ち、才能次第で英雄になることもできます。

■【歴史的現実】

中世ヨーロッパの人口の大多数（9割以上とも言われる）は、土地に法的に縛り付けられた「農奴（serf）」でした。

彼らは領主の財産と見なされ、移動や職業選択の自由はなく、賦役（労働奉仕）や結婚税といった重い義務を負っていました。

▼創作のヒント

もし主人公が、この「農奴」の身分だったら？

彼の最初の冒険は、ドラゴン退治ではなく、「生まれ育った村から合法的に抜け出すこと」かもしれません。

その達成は、どんな魔王討伐にも劣らない、感動的な物語になるはずです。



あとがき

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

世界の「不自由さ」は、物語の「面白さ」の源泉です。

当たり前だと思っていた社会のルールを少し変えるだけで、そこに新たな葛藤とドラマが生まれます。

次回予告

世界の骨格の次は、そこに流れる「経済の血脈」です。

誰もが利用する「冒険者ギルド」は、一体どこから来たのか？ 創作のヒントに満ちた、経済と文化の歴史を深掘りします。

物語世界を「生かす」ための時代考証ライブラリー

【テーマ別深掘り編】Vol.2『経済・文化編：「冒険者ギルド」はどこから来たのか？』ご期待ください。

ことほむ合同会社（時代考証・文化観光 ナラティブバリュー・コンサルタント）

<https://kotohomu.com>

■本資料のご利用にあたって

本書の著作権は、ことほむ合同会社に帰属します。

著作権法で認められている引用の範囲を除き、弊社の許可なく、本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製、改変、販売、再配布することを固く禁じます。

本書に掲載された情報の正確性には万全を期しておりますが、その内容の完全性・正確性を保証するものではありません。

本書の情報をを用いて行う一切の行為について、弊社は何ら責任を負うものではありません。

© 2025 ことほむ合同会社